

# 驚異の『エジプト誌』

建築・環境学部 関 和明

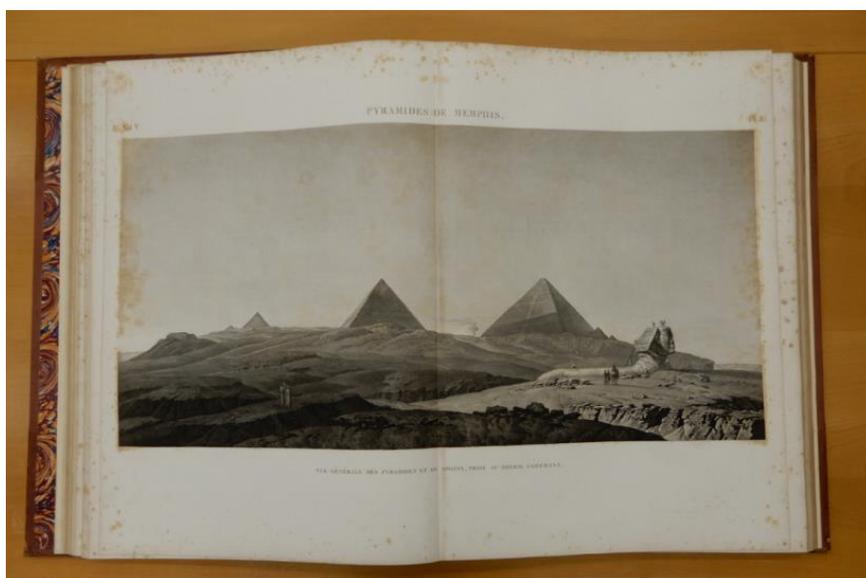
「エジプト誌」は、18世紀末にナポレオン・ボナパルトによって遂行されたエジプト遠征に同行した学者団による調査観察記録を、後にフランス皇帝となったナポレオンの命により、テキスト・図版あわせて二十数巻で出版した書物史上の一大モニュメントである。

精緻な図版を数多く含み、近代エジプト学誕生の契機となった「ロゼッタストーン」の碑文も克明に再現されている。また、様々な遺跡が発掘調査前の状態で記録され、廃墟から想像的に復元された建築を表す図面も多く、研究史上でも貴重な資料である。

地図、遺跡、動植物、民俗資料など、百科全書的な知的探究の成果が、手彩色による美しい大判図版を満載して表現され、美術作品として鑑賞することもできる。「エレファント判」と呼ばれる大判の巻もあり、保管や閲覧には少し工夫が必要だが、愛書家には大きな魅力かもしれない。

(初出「神奈川新聞」2014年7月14日付)

※執筆者肩書は初出時のまま掲載しています。



本学図書館貴重資料 『エジプト誌』

(縦71cm×横54cm)